

平成25年度事業報告書

〔 平成25年4月 1日から
平成26年3月31日まで 〕

目 次

I. 概 要	1
II. 理 事 会	2
III. 評 議 員 会	3
IV. 主要事業活動	4
1. 継続事業（産業技術人材交流事業）	
(1) 日韓中小企業ビジネス促進事業	
(2・3) 日韓部品素材供給・調達商談会	
(4) 日韓部品素材東京商談会	
(9) 先進企業技術交流事業 日本語教育	
(10) 先進企業技術交流事業 企業実習	
(11) 次世代理工系研究人材交流事業 SI	
(12) 次世代理工系研究人材交流事業 WI	
(14) 各種調査・研究事業	
(15) 財団ホームページ整備	
2. その他事業（日韓未来志向事業）	
(1) 日韓グリーン産業交流事業	
(2) 日韓海外・地域間産業連携事業 第三国展開事業	
(3) 日韓海外・地域間産業連携事業 九州・韓国経済交流会議	
(4) 日韓海外・地域間産業連携事業 医療・介護技術連携事業	
(5) 日韓海外・地域間産業連携事業 北陸・韓国経済交流会議	
(6) 日韓経済連携関連事業 新産業貿易会議	
(7) 日韓経済連携関連事業 日韓経済人会議	
V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催	18
VI. 事務局人事	21
VII. 財団主要活動	22

I. 概 要

当財団設立後、事業を開始して以来21年が経過した。これまで日本政府、及び関係経済団体のご協力と日本側企業の多大なご支援により、韓国の中堅・中小企業の経営をはじめ多くの分野に於いて事業の成果が上がっている。この21年間で当財団の事業に参加した韓国人数、韓国企業数は、研究支援事業、セミナー等で5,230名、産業人の交流事業で1,554名、また生産性向上協力事業等を実施した企業は390社、また商談会等に参加した日本、韓国両国の企業数は1,800社を超える。

財団活動に対しては、年を重ねる毎に改めてその役割が認識され、今後の活動も期待されている。日韓両国政府、関係者から良い評価を頂き、また事業に参加した韓国企業の社員やセミナーの受講者からも、講師・専門家の助言や、指導内容が大変有益であったと感謝されている。

平成25年度は主に政府からの拠出金140,268千円（外務省25,177千円、経済産業省115,091千円）、更に基本財産の戦略的活用30,000千円を得て運営並びに事業を実施した。

1. 当年度中、理事会3回、評議員会2回を開催し、財団運営の重要事項について審議、議決を行った。
2. 平成25年度は、平成24年度第4回理事会で承認された事業計画に従い下記事業を実施した。 【共同】：韓日財団との共同事業
 - 1) 継続事業（産業技術人材交流事業）9事業
 - (1) 日韓中小企業ビジネス促進事業 【共同】
 - (2・3) 日韓部品素材供給・調達商談会 【共同】
 - (4) 日韓部品素材東京商談会 【共同】
 - (9) 先進企業技術交流事業 日本語教育 【共同】
 - (10) 先進企業技術交流事業 企業実習 【共同】
 - (11) 次世代理工系研究人材交流事業 SI
 - (12) 次世代理工系研究人材交流事業 WI
 - (14) 各種調査・研究事業
 - (15) 財団ホームページ整備
 - 2) その他事業（日韓未来志向事業）7事業
 - (1) 日韓グリーン産業交流事業 【共同】
 - (2) 日韓海外・地域間産業連携事業 第三国展開事業 【共同】（財団・協会共同事業）
 - (3) 日韓海外・地域間産業連携事業 九州・韓国経済交流会議
 - (4) 日韓海外・地域間産業連携事業 医療・介護技術連携事業
 - (5) 日韓海外・地域間産業連携事業 北陸・韓国経済交流会議
 - (6) 日韓経済連携関連事業 新産業貿易会議 （財団・協会共同事業）
 - (7) 日韓経済連携関連事業 日韓経済人会議 （財団・協会共同事業）

来年で日韓国交正常化50周年の節目の年となるが、新たな50年を迎えるに当たり、日韓未来志向事業に日韓共同の第三国展開事業、高齢化対策（医療・介護技術連携事業）を加え充実させつつある。今後さらに青少年の交流・育成の強化、環境・観光、日韓オリンピックの相互協力への対応を加えていく。

以 上

Ⅱ. 理 事 会

今年度は3回の理事会を開催、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく可決承認された。各理事会の概要は以下のとおりである。

1. 第1回理事会

- 1) 日 時 平成25年4月12日(金) 午後3時00分～4時00分
- 2) 場 所 当財団会議室
- 3) 議 題 第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選(案)の件
第2号議案 主たる事務所移転の件
第3号議案 基本財産の一部取り崩し及び戦略的活用の件
第4号議案 第1回臨時評議員会の招集の件

2. 第2回理事会

- 1) 日 時 平成25年6月14日(金) 午後3時30分～4時30分
- 2) 場 所 三菱商事ビル
- 3) 議 題 第1号議案 平成24年度事業報告書及び財務諸表の承認
第2号議案 平成25年度収支予算書の一部変更
第3号議案 第2回定時評議員会の招集

3. 第3回理事会(決議の省略により開催)

- 1) 理事会の決議があったものとみなされる日 平成26年3月27日(木)
- 2) 決議事項 第1号議案 平成26年度事業計画(案)承認の件
第2号議案 平成26年度収支予算(案)承認の件

以 上

Ⅲ. 評 議 員 会

今年度は2回の評議員会を開催、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく承認された。各評議員会の概要は以下のとおりである。

1. 第1回評議員会（決議の省略及び報告の省略により開催）

- 1) 評議員会の決議があったものとみなされる日 平成25年4月19日（金）
- 2) 決議事項 第1号議案 基本財産の一部取り崩し及び戦略的活用の特
- 3) 報告事項 ①理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選の特
②主たる事務所移転の特

2. 第2回評議員会（決議の省略及び報告の省略により開催）

- 1) 評議員会の決議があったものとみなされる日 平成25年6月25日（火）
- 2) 決議事項 第1号議案 平成24年度事業報告書及び財務諸表の承認
- 3) 報告事項 ①平成25年度収支予算書の一部変更

以 上

IV. 主要事業活動

事業名	1. 継続事業（産業技術人材交流事業） （1）日韓中小企業ビジネス促進事業 【共同事業】																		
事業内容	日韓でビジネスを希望する中小企業の個々の相談に応じ、成約に至るまで日常的に支援する。ITを活用して企業情報・商品情報をネット上で紹介し、韓国との製品・商品の売買、生産委託、技術提携・事業提携等に関心のある企業を支援する。その手段としてビジネスマッチングサイト（日韓中小企業情報交流センター・JK-BIC）を運営し、ビジネス相談・企業情報登録を常時可能とする。さらに個別商談を希望する企業同士の商談アレンジ・同行、アドバイス等を提供する。																		
実施状況	日韓間のビジネスを展開したいが言葉の壁等で悩んでいる中小企業を日常的に支援し、日韓ビジネス連携の促進を図った。支援した内容は以下の通りである。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各種ビジネス相談 ・企業調査 ・パートナー探し ・企業の信用情報提供 ・企業間コミュニケーション仲介 ・個別商談アレンジ・同行 ・通訳手配 ・貿易実務の支援 ・ビジネス文書の翻訳 ・韓国経済関連、各種情報リサーチ・提供等 </div> 支援ガイドラインを設け、以下は支援対象外とした。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・食品・飲料品、農林・水産、建設、不動産・金融、物流・卸、医療・美容・医薬品等の業種 ・雇用を伴う人材紹介 ・大企業同士のビジネスマッチング ・成約後のビジネストラブル対応 </div> 事業推進の為、専用HP『 http://www.jk-bic.jp/ 』を運営し、随時新しい情報を更新する他、内容充実を図るため改修を行った。（平成25年度サイト閲覧数：28,106件） センターの利用促進の為、広報ツール（パンフレット、ポスター等）を活用し、「日韓ビジネスガイド(入門編・実践編)」の増刷を実施した。さらに中小企業を対象とした展示会へ出展(3回)し、積極的に広報活動とネットワークの充実を図った。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">開催期間</th> <th style="width: 35%;">展示会名称</th> <th style="width: 15%;">場所</th> <th style="width: 25%;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2013/05/29～05/31 (3日間)</td> <td>中小企業総合展 in Kansai</td> <td>大阪</td> <td>韓日財団と共同出展</td> </tr> <tr> <td>2013/11/15～11/17 (3日間)</td> <td>モノづくりフェア 2013</td> <td>福岡</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2014/02/05～02/07 (3日間)</td> <td>テクニカルショウヨコハマ2014</td> <td>横浜</td> <td>韓日財団と共同出展</td> </tr> </tbody> </table>			開催期間	展示会名称	場所	備考	2013/05/29～05/31 (3日間)	中小企業総合展 in Kansai	大阪	韓日財団と共同出展	2013/11/15～11/17 (3日間)	モノづくりフェア 2013	福岡		2014/02/05～02/07 (3日間)	テクニカルショウヨコハマ2014	横浜	韓日財団と共同出展
開催期間	展示会名称	場所	備考																
2013/05/29～05/31 (3日間)	中小企業総合展 in Kansai	大阪	韓日財団と共同出展																
2013/11/15～11/17 (3日間)	モノづくりフェア 2013	福岡																	
2014/02/05～02/07 (3日間)	テクニカルショウヨコハマ2014	横浜	韓日財団と共同出展																
	【 事業成果概要 】																		
	言語・商習慣の違い等の壁を取り払い、質の高い情報を通じたビジネス交流を常時可能とし、「現地個別商談18件実施、成約10件」の成果を達成することができた。																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">ビジネス相談件数 102件</td> <td style="width: 33%;">日本企業からの相談(企業情報登録を含む) 74件</td> <td style="width: 33%;">韓国企業からの相談(企業情報登録を含む) 28件</td> </tr> <tr> <td>現地個別商談件数 18件</td> <td>日本企業による韓国訪問：10件</td> <td>韓国企業による日本訪問：8件</td> </tr> <tr> <td>成約件数 10件</td> <td colspan="2"> ・調達8件：金型生産委託(2)、機械部品生産委託(2)、温度制御盤生産委託(1)、LED照明/サイネージの輸入(2)、マイクロファイバーの輸入(1) ・供給2件：販売代理店契約2(バリ取りツールの輸出(1)、電子機器の輸出(1)) </td> </tr> </table>			ビジネス相談件数 102件	日本企業からの相談(企業情報登録を含む) 74件	韓国企業からの相談(企業情報登録を含む) 28件	現地個別商談件数 18件	日本企業による韓国訪問：10件	韓国企業による日本訪問：8件	成約件数 10件	・調達8件：金型生産委託(2)、機械部品生産委託(2)、温度制御盤生産委託(1)、LED照明/サイネージの輸入(2)、マイクロファイバーの輸入(1) ・供給2件：販売代理店契約2(バリ取りツールの輸出(1)、電子機器の輸出(1))								
ビジネス相談件数 102件	日本企業からの相談(企業情報登録を含む) 74件	韓国企業からの相談(企業情報登録を含む) 28件																	
現地個別商談件数 18件	日本企業による韓国訪問：10件	韓国企業による日本訪問：8件																	
成約件数 10件	・調達8件：金型生産委託(2)、機械部品生産委託(2)、温度制御盤生産委託(1)、LED照明/サイネージの輸入(2)、マイクロファイバーの輸入(1) ・供給2件：販売代理店契約2(バリ取りツールの輸出(1)、電子機器の輸出(1))																		

事業名	1. 継続事業（産業技術人材交流事業） （2・3）日韓部品素材調達・供給商談会（韓国開催） 【共同事業】 （4）日韓部品素材東京商談会（日本開催） 【共同事業】																								
事業内容	両国の中小企業連携による相互補完関係構築を目的として日韓中小企業商談会を2003年度から継続実施しており、その第20回を「日韓部品素材東京商談会2013」として東京にて、第21回を「日韓部品素材調達・供給商談会2013」としてソウルにて、日韓両国財団の共催事業として開催し、その運営を担当した。																								
実施状況	<p>1. 第21回 日韓中小企業商談会（日本企業訪韓、ソウル）</p> <p>1) 日程・場所：平成25年10月1日～2日、ロッテホテルソウル2階 Crystal Ballroom</p> <p>2) 開催形態：両財団主催（「日韓産業技術フェア2013」主要プログラムの一つとして実施）</p> <table border="1" data-bbox="363 779 1426 1133"> <tr> <td>9月30日(月)</td> <td>午後</td> <td>日本企業韓国到着、会場設営確認</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">10月1日(火)</td> <td>10:00～12:20</td> <td>日韓産業技術フェア開会式、表彰、特別講演</td> </tr> <tr> <td>13:30～19:30</td> <td>商談会（初日）、日本企業交流会</td> </tr> <tr> <td>10月2日(水)</td> <td>10:00～17:30</td> <td>商談会（二日目）</td> </tr> <tr> <td>10月3日(木)</td> <td></td> <td>日本企業帰国</td> </tr> </table> <p>3) 商談会：日本企業27社、韓国企業126社が参加、合計233件の商談を実施。 5ヶ月後フォローアップ調査により、成約2件、商談継続中67件。 ＊日本企業コーディネート業務委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)</p> <p>2. 第20回 日韓中小企業商談会（韓国企業来日、東京）</p> <p>1) 日程・場所：平成25年6月12日、品川プリンスホテル・メインタワー「ゴールド19」</p> <p>2) 開催形態：両財団主催</p> <table border="1" data-bbox="363 1496 1407 1733"> <tr> <td>6月11日(火)</td> <td>11:45～20:00</td> <td>韓国企業来日、工場見学、企業交流会 （韓日財団の単独事業として）</td> </tr> <tr> <td>6月12日(水)</td> <td>10:00～17:30</td> <td>商談会実施 （日韓財団が商談会運営を主担当）</td> </tr> <tr> <td>6月13日(木)</td> <td></td> <td>韓国企業 帰国</td> </tr> </table> <p>3) 商談会：韓国企業21社、日本企業51社が参加し、合計144件の商談を実施。 5ヶ月後の商談フォローアップ調査により、商談継続中22件（成約なし）。 ＊日本企業コーディネート業務委託先：三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)</p>		9月30日(月)	午後	日本企業韓国到着、会場設営確認	10月1日(火)	10:00～12:20	日韓産業技術フェア開会式、表彰、特別講演	13:30～19:30	商談会（初日）、日本企業交流会	10月2日(水)	10:00～17:30	商談会（二日目）	10月3日(木)		日本企業帰国	6月11日(火)	11:45～20:00	韓国企業来日、工場見学、企業交流会 （韓日財団の単独事業として）	6月12日(水)	10:00～17:30	商談会実施 （日韓財団が商談会運営を主担当）	6月13日(木)		韓国企業 帰国
9月30日(月)	午後	日本企業韓国到着、会場設営確認																							
10月1日(火)	10:00～12:20	日韓産業技術フェア開会式、表彰、特別講演																							
	13:30～19:30	商談会（初日）、日本企業交流会																							
10月2日(水)	10:00～17:30	商談会（二日目）																							
10月3日(木)		日本企業帰国																							
6月11日(火)	11:45～20:00	韓国企業来日、工場見学、企業交流会 （韓日財団の単独事業として）																							
6月12日(水)	10:00～17:30	商談会実施 （日韓財団が商談会運営を主担当）																							
6月13日(木)		韓国企業 帰国																							

事業名	1. 継続事業（産業技術人材交流事業） （9）先進企業技術交流事業 日本語教育 【共同事業】
事業内容	日本企業での企業実習を効果的に遂行するために、韓国企業の中堅技術者の日本語コミュニケーション能力を向上させる目的で実施する事業であり、2013年度も日本で実施。（継続事業（10）企業実習とリンクして実施）
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> <p>（1）開講式 : 7月30日</p> <p>（2）日本語教育 : 7月31日～8月29日 （30日間の合宿形式）</p> <p>（3）修了式 : 8月29日</p> <p>（4）参加人員 : 14名</p> <p>2. 実施要領</p> <p>（1）実施場所 : リフレフォーラム（東京都江東区大島7-37-11）</p> <p>（2）担当教師 : 延べ3名/日の教師によるローテーション授業</p> <p>（3）クラス編成 : 能力別に3クラス</p> <p>（4）教育時間 : 6日/週（月～土曜日）、7時間/日で4週間、合計171.5時間</p> <p>3. 実施内容</p> <p>（1）来日前に最低限必要と思われる項目に付き自学自習出来るように学習課題を与えた。</p> <p>（2）7月31日に行った筆記試験とインタビューによる能力評価テストの結果に基づき、初級①クラス、初級②クラス及び中級クラスの3クラス編成とした。</p> <p>（3）クラス毎に、読む、書く、聞く、話す、の4能力向上のためのカリキュラムを設定し、視聴覚機器を使用する教育とした。</p> <p>（4）日本で日本語教育を行うという利点を活かし、クラス別に課外体験実習を行い生きた日本語教育を行った。</p> <p>（5）8月28日には総まとめのテストを行った。</p> <p>4. 実施結果</p> <p>（1）全員が無事に所定の課程を修了したので、教育機関発行の「修了証書」を授与した。</p> <p>（2）教育開始時にかなりのレベル差があったため、以下のようにクラス毎に教育成果に違いが出た。（以下の成果は、読む・書く・聞く・話す、4項目についてのテスト結果をポイント評価（10ポイントが満点）し、4項目を総合評価した結果である。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級①クラス : 3.1 → 5.4 1. 7倍の伸び ・初級②クラス : 3.2 → 7.0 2. 2倍の伸び ・中級クラス : 6.5 → 8.3 1. 3倍の伸び ・3クラス平均 : 4.3 → 6.9 1. 6倍の伸び <p>（3）2013年度は日本国内で実施した。日本人と生きた日本語を話す機会も多く、日本文化にも触れ非常に好評であった。</p> <p>（4）受入企業アンケート調査結果では、9社が日本語コミュニケーション良好、5社が少々問題があったと回答。次回も来日前に韓国国内での日本語習得プログラムを徹底させ、少しでも日本語能力を向上させて来日できるようにはかる。</p>

事業名	1. 継続事業（産業技術人材交流事業） （10）先進企業技術交流事業 企業実習 【共同事業】																																		
事業内容	韓国企業の中堅技術者を日本に招聘し、国内の日本企業において、技術・経営上の課題の解決を目的とした企業実習を実施。（継続事業（9）日本語教育とリンクして実施）																																		
実施状況	1. 期間及び人数 （1）入国及び歓迎会： 7月30日 （2）オリエンテーション： 8月30日 （3）企業実習： 9月1日（受入企業へ移動）～10月26日（帰国）（56日間） （4）参加人員： 14名 2. 内容 （1）派遣企業、受入企業及び中堅技術者のそれぞれにメリットが出るような実習テーマと推進方法を計画し、受入企業と事前に意見交換を実施。 （2）9月27日～29日に、新大阪に全実習生を集めて中間発表を実施。 （3）10月25日、受入企業関係者の出席のもと、実習終了の報告会及び送別会を実施。 （4）2014年2月6日にソウルで評価懇談会を実施。実習生10名が参加し、実習成果についての報告等を行った。 3. 技術者派遣韓国企業（13社）及び受入日本企業（14社）																																		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜派遣企業＞</th> <th style="width: 25%; text-align: center;">＜受入企業＞</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) SR Technopack CO.,LTD</td> <td>大垣精工(株) (株)浅野研究所</td> <td>(8) (株)宇進機電</td> <td>(株)東芝</td> </tr> <tr> <td>(2) I.B.R(株)</td> <td>(株)東通</td> <td>(9) R.S. KOREA(株)</td> <td>リンナイ精機(株)</td> </tr> <tr> <td>(3) (株)宇進産電</td> <td>(株)東芝</td> <td>(10) 韓国 AZBIL(株)</td> <td>アズビル(株)</td> </tr> <tr> <td>(4) ADEKA KOREA(株)</td> <td>(株)ADEKA</td> <td>(11) (株)瑞進 CAM</td> <td>コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト</td> </tr> <tr> <td>(5) 三益 SES(株)</td> <td>大垣精工(株)</td> <td>(12) (株)和信 TECH</td> <td>(株)クライムエヌシー デー</td> </tr> <tr> <td>(6) (株)又進</td> <td>(株)オーパル</td> <td>(13) 大同 HI-LEX(株)</td> <td>(株)ハイレックス コーポレーション</td> </tr> <tr> <td>(7) (株)瑞進 CAM</td> <td>コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト</td> <td>(14) 21世紀機業(株)</td> <td>(株)廣野鐵工所</td> </tr> </tbody> </table>			＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞	(1) SR Technopack CO.,LTD	大垣精工(株) (株)浅野研究所	(8) (株)宇進機電	(株)東芝	(2) I.B.R(株)	(株)東通	(9) R.S. KOREA(株)	リンナイ精機(株)	(3) (株)宇進産電	(株)東芝	(10) 韓国 AZBIL(株)	アズビル(株)	(4) ADEKA KOREA(株)	(株)ADEKA	(11) (株)瑞進 CAM	コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト	(5) 三益 SES(株)	大垣精工(株)	(12) (株)和信 TECH	(株)クライムエヌシー デー	(6) (株)又進	(株)オーパル	(13) 大同 HI-LEX(株)	(株)ハイレックス コーポレーション	(7) (株)瑞進 CAM	コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト	(14) 21世紀機業(株)	(株)廣野鐵工所
	＜派遣企業＞	＜受入企業＞	＜派遣企業＞	＜受入企業＞																															
(1) SR Technopack CO.,LTD	大垣精工(株) (株)浅野研究所	(8) (株)宇進機電	(株)東芝																																
(2) I.B.R(株)	(株)東通	(9) R.S. KOREA(株)	リンナイ精機(株)																																
(3) (株)宇進産電	(株)東芝	(10) 韓国 AZBIL(株)	アズビル(株)																																
(4) ADEKA KOREA(株)	(株)ADEKA	(11) (株)瑞進 CAM	コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト																																
(5) 三益 SES(株)	大垣精工(株)	(12) (株)和信 TECH	(株)クライムエヌシー デー																																
(6) (株)又進	(株)オーパル	(13) 大同 HI-LEX(株)	(株)ハイレックス コーポレーション																																
(7) (株)瑞進 CAM	コマツ NTC(株) (株)堀部鉄工所 (株)ジェイテクト	(14) 21世紀機業(株)	(株)廣野鐵工所																																
4. 実習成果及びアンケート調査結果 （1）日本語教育期間を含め、全員が無事に所定の課程を修了し帰国した。 （2）実習成果を業務に活用し、生産性向上、サイクルタイムの短縮、品質向上、品質コストを考慮した設計手法、材料供給メーカーの管理手法などに成果を上げていること、日本企業との日本語コミュニケーションが可能となったことなどの報告があった。 （3）派遣企業や受入企業へのアンケート調査結果では、当事業の有効性や運営方法に肯定的な意見が多く、派遣企業として今後も派遣を継続したいと答えた企業が回答数9社中9社、受入企業として実習を受入りたいと答えた企業が回答数14社中11社、年度毎に受入判断したいと答えた企業が回答数14社中2社であった。																																			

事業名	<p>1. 継続事業（産業技術人材交流事業）</p> <p>(1 1) 次世代理工系研究人材交流事業 SI 【共同事業】</p> <p>(1 2) 次世代理工系研究人材交流事業 WI 【共同事業】</p>
事業内容	<p>日本の理工系大学院生（博士／修士課程在籍者）を夏休みに7週間韓国へ派遣し、大学・公的研究機関で研究研修する事業（Summer Institute : SI）と韓国の理工系大学院生（同上）を冬休みに5週間日本へ招聘し、公的研究機関で研究研修する事業（Winter Institute : WI）からなる。</p> <p>(1) 人数 : SI 4名、WI 10名 (2) 期間 : 5 - 7週間</p>
実施状況	<p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【SI】2013年7月31日～2013年9月13日(45日間)名古屋大学他3大学から4名 (男子4、女子0) ・【WI】2014年1月17日～2014年2月21日(36日間)ソウル大学他5大学から10名 (男子8、女子2) <p>2. 受入研究機関 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【SI】国家核融合研究所、延世大学校、忠南大学校、昌原大学校 (計)4機関 4名 ・【WI】物質・材料研究機構、産業技術総合研究所、理化学研究所、森林総合研究所、農業生物資源研究所、国立精神・神経医療研修センター (計)6機関 10名 <p>3. 特記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初予算 SI、WIともに3名の予算であったが SIは1名、WIは7名の増枠し実施。 <p>4. 成果等 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SIは、今年度で6回を数え27名の参加である。 ・WIは、今年度で第21回702名(平均約33名)である。2013年度は厳しい予算の中、韓国研究財団(NRF)にも費用負担いただき、最低10人枠として日韓両国の予算で進めた。 <p style="text-align: center;">実施 : (公社)科学技術国際交流センター (JISTEC) 協力 : 韓日産業・技術協力財団(KJCF)、韓国研究財団(NRF)</p>

事業名	1. 継続事業（産業技術人材交流事業） （14）各種調査・研究事業			
事業内容	本事業は調査・広報事業の一部として、既に韓国で生産・営業活動を営んでいる日系進出企業の現地経営の高度化を支援すべく実施するものである。1999年以降、韓国経営研究会として2種の研究会を100回開催した。（ソウルジャパンクラブ(SJC)経営研究会支援）			
実施状況	在韓日系企業における経営技術向上のための、経営ノウハウの交流促進、韓国産業・経済等に関する学習の場を提供する。2013年度、韓国経営研究会は次の2種類を実施した。			
	1) 企業経営研究会			
	テーマ	場所	日程	参加人数
	第1回（通算38回） 釜山地域の投資環境と景気状況	訪問先： ・釜山未来都市館 ・北港再開発地区 ・LG CNS クラウドデータセンター ・美音外交人投資地域 ・釜山国際物流センター等	7月4日（木） ～5日（金）	18名
	第2回（通算39回） 浦項、蔚山地域の投資環境と景気状況	訪問先： ・浦項市、蔚山広域市 ・POSCO社 ・蔚山現代自動車 ・新港湾等	11月28日（木） ～29日（金）	23名
	2) 経営研究セミナー			
テーマ	講師	日時・場所	参加人数	
第1回（通算59回） 新大統領下での新たな韓国～日本との経済関係を中心に～	在大韓民国日本国大使館 相馬弘尚公使	3月28日（木） 16:00～17:30 大韓商工会議所 A会議室	100名	
第2回（通算60回） ①サムソンが見る韓国経済の現状と展望 ②サムソングループの人材育成戦略	① サムソン生命保険(株) 保険金融研究所 所長 イ・ジエトソン氏 ② サムソン人力開発院 常務 ユ・ファン Chol氏	5月21日（火） 13:30～18:00 三星人力開発院 創造館	205名	
第3回（通算61回） ① 為替相場の現状と展望 ② 韓国経済と為替・金利相場見通し	① 三菱東京UFJ銀行 チーフアナリスト 内田稔氏 ② 同 ソウル支店長 木ノ下直志氏	12月23日（火） 16:00～18:00 大韓商工会議所	101名	
本研究会の意義を確認するとともに、実施内容・実施方等改善への示唆を得ることができた。				
委託：ソウルジャパンクラブ（SJC）				

事業名	<p>1. 継続事業（産業技術人材交流事業） (15) 財団ホームページ整備</p>
事業内容	<p>財団パンフレットの更新、既存のホームページの充実及び更新等を通じて、財団事業に関する情報を積極的にPRしていく。</p>
実施状況	<p>日韓財団の「ホームページ（HP）」のより一層の充実を図り、随時新しい活動内容を情報開示すると共に、基幹データを整理した。</p> <p>財団の実績及び成果事例、各種事業報告書、決算書等もアップデートし、掲載した。</p> <p>また、各事業の終了時には、写真を取り込み結果報告などタイムリーに掲載する等、財団事業活動のPRに貢献した。</p> <p>入札に関しては財団事業の業務委託の案内（説明会含む）、及び選定結果を掲載し、周知した。</p>

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） (1) 日韓グリーン産業交流事業 【共同事業】																				
事業内容	<p>地球環境問題は全世界の企業に課せられた重要な問題である。今後の韓国製造業として地球環境の永続的な改善・維持活動の為、韓国中小企業の経営者および技術系幹部を対象に先進的な日本企業の環境経営や省エネルギーへの対応などについての学習機会を提供した。</p> <p>(2013年度(第6回))</p> <p>(1) 対象：韓国製造業 中堅・中小企業 技術系経営幹部 14名</p> <p>(2) 期間：6日</p> <p>(3) 内容：a) 日本企業の省エネ・低コスト&環境経営への取り組みを知る b) 環境経営の基盤となり、生産性向上の基盤ともなる「5S」、「セル生産」を学ぶ c) 企業の環境改善、省エネ、省コスト活動事例を学ぶ</p>																				
実施状況	<p>1. 実施状況</p> <table border="1" data-bbox="271 705 1436 1691"> <tr> <td>期 間</td> <td>2013年10月14日(月)～10月19日(土)(来日～帰国)</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>日 程</td> <td>内 容</td> </tr> <tr> <td>10/14(月)</td> <td>来日 1) オリエンテーション 2) 開講式 3) 歓迎懇親会</td> </tr> <tr> <td>10/15(火)</td> <td>1) 講義① 環境経営基礎理論 2) 事例研究① 5Sの徹底とセル生産(TOTO アクアテクノ小倉工場)</td> </tr> <tr> <td>10/16(水)</td> <td>1) 展示会視察(エコテクノ2013 @西日本総合展示場) 2) 事例研究②環境テクノロジー&3Rビジネスの実際(西日本家電リサイクル) 3) エコタウンセンター視察(北九州市エコタウンセンター)</td> </tr> <tr> <td>10/17(木)</td> <td>1) 事例研究③大企業の環境経営活動(三菱マテリアル) 2) 事例研究④中小企業の環境経営活動(八幡電機精工)</td> </tr> <tr> <td>10/18(金)</td> <td>1) 事例研究⑤大企業の環境経営活動(TOTO) 2) 研修まとめ、発表会 3) 事前質問への回答 4) 閉講式、送別交流会</td> </tr> <tr> <td>10/19(土)</td> <td>帰国</td> </tr> </table> <p>2. 成果概要等</p> <p>技術系経営幹部を対象にして環境経営あるいは環境ビジネスに関連した5S活動、3Rビジネス、エコアクション21等の環境経営ガイドライン紹介をコンテンツとした。今回の参加者は機械加工/自動車部品関連企業からインク製造、浄水器製造などさまざまな業種の技術系経営幹部の方たちが多かった。今年度は、まとめとして2グループに分かれ、何を学んだか、何を自企業に展開しようとするのか等をグループ内で討議し発表してもらったが、この研修の理解度アップと問題点の共有化が図れた内容となった。技術系経営幹部のまとめて行く能力の高さにも目を見張るものがあった。委託：(公財)北九州国際技術協力協会</p>	期 間	2013年10月14日(月)～10月19日(土)(来日～帰国)	場 所	ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)	参加者	14名	日 程	内 容	10/14(月)	来日 1) オリエンテーション 2) 開講式 3) 歓迎懇親会	10/15(火)	1) 講義① 環境経営基礎理論 2) 事例研究① 5Sの徹底とセル生産(TOTO アクアテクノ小倉工場)	10/16(水)	1) 展示会視察(エコテクノ2013 @西日本総合展示場) 2) 事例研究②環境テクノロジー&3Rビジネスの実際(西日本家電リサイクル) 3) エコタウンセンター視察(北九州市エコタウンセンター)	10/17(木)	1) 事例研究③大企業の環境経営活動(三菱マテリアル) 2) 事例研究④中小企業の環境経営活動(八幡電機精工)	10/18(金)	1) 事例研究⑤大企業の環境経営活動(TOTO) 2) 研修まとめ、発表会 3) 事前質問への回答 4) 閉講式、送別交流会	10/19(土)	帰国
期 間	2013年10月14日(月)～10月19日(土)(来日～帰国)																				
場 所	ホテルクラウンパレス(福岡県北九州市小倉北区)																				
参加者	14名																				
日 程	内 容																				
10/14(月)	来日 1) オリエンテーション 2) 開講式 3) 歓迎懇親会																				
10/15(火)	1) 講義① 環境経営基礎理論 2) 事例研究① 5Sの徹底とセル生産(TOTO アクアテクノ小倉工場)																				
10/16(水)	1) 展示会視察(エコテクノ2013 @西日本総合展示場) 2) 事例研究②環境テクノロジー&3Rビジネスの実際(西日本家電リサイクル) 3) エコタウンセンター視察(北九州市エコタウンセンター)																				
10/17(木)	1) 事例研究③大企業の環境経営活動(三菱マテリアル) 2) 事例研究④中小企業の環境経営活動(八幡電機精工)																				
10/18(金)	1) 事例研究⑤大企業の環境経営活動(TOTO) 2) 研修まとめ、発表会 3) 事前質問への回答 4) 閉講式、送別交流会																				
10/19(土)	帰国																				

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） （2）日韓海外・地域間産業連携事業 第三国展開事業 【共同事業】	
事業内容	1つの経済圏形成を目指す日韓両国による、お互いの強みを生かした経済連携の第三国での進出事例研究を行う。アジア圏を中心に日韓企業による共同進出（インフラ輸出／エネルギー獲得）の現場視察と研究発表、より一層の共同進出促進の可能性を探る。2013年度は日韓両国経済人、政府機関、諸団体参加によるアジア最後のフロンティア ミャンマーにおけるインフラ整備の現場の視察、あらゆる場面での日韓企業連携による第三国展開の可能性研究とセミナー、広域メコン域から見たミャンマー進出の俯瞰的展望セミナーを実施した。	
実施状況	1. 実施状況	
	期 間	2014年2月23日（日）～2月27日（木）
	場 所	ミャンマー連邦 ヤンゴン、タイ王国 バンコク
	参加者	日本側29名 韓国側19名 合計48名
	日 程	内 容
	2/23(日)	出発 成田空港－ミャンマー ヤンゴン空港 集合 @ヤンゴン チャトリウムホテル
	2/24(月)	1) ヤンゴン市内 ミンガラドン工業団地視察 2) " ジャンクシヨンスクエアショッピングモール視察 3) 日韓連携第3国展開セミナー 4) 交流会 在ヤンゴン日韓政府関係者、現地駐在企業、参加者による交流会
	2/25(火)	1) ティラワ工業団地造成地、ティラワ港湾設備視察 2) タケタ火力発電所建設予定地視察
	2/26(水)	1) ヤンゴン市内視察 2) セミナー「広域メコン域から見たミャンマーの可能性」@タイ バンコク 3) 解散
	2/27(木)	1) 帰国
2. 成果概要等 視察事業準備段階の昨年10月にソウルにて日韓連携第3国進出についてのセミナー、野村総研ソウル支店による日韓連携の可能性についての研究発表を実施し、韓国経済人への広報を行った。本番の視察は日韓国交正常化記念事業として実施。 日韓の冷え切った政治的状況の中、日韓経済人による日韓経済連携第3国進出は政治的葛藤とは一線を画し、アジアの中で日韓両国がお互いの強みと弱みを相互補完しながら、他のグローバルプレイヤーの中で競争優位の経済活動を行う意味で1つのビジネスモデルを研究した。また、OECD加盟国の責任として途上国での地域貢献も事例視察として行った。今回はアジア最後のフロンティアとしてミャンマーに視察ミッションを派遣した。日韓だけでなく、中国、欧米も競争者として存在する中で、インフラ整備から軽工業、救命、医療まであらゆるものが案件となるような状況で上記のような競争優位を形成するために日韓両国の協力の可能性を視察、討議した。また、日韓の各組織によるミャンマー国内での人材育成、法整備への努力も視察できた。このミッションはNHKも注目するようになり、3/30の番組で取り上げられ、広報効果も上がった。 この視察の結果は本年の新産貿会議、日韓経済人会議で発表の予定である。		

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） （3）日韓海外・地域間産業連携事業 九州・韓国経済交流会議	
事業内容	九州・韓国両国の交流を支援することにより、両国間の貿易・投資・産業協力を促進する。 「九州・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、1993年度より毎年度実施。（隔年で日本・韓国内で年1回開催）。今回で20回目を数える。	
実施状況	期 間	10月1日（火）9:00～12:40
	場 所	釜山ロッテホテル
	参加者	122名の日韓の関係者
	日 程	内 容
	10/4(水)	1) 挨拶 ①産業通商資源部通商協力審議官 李 誠浩（イ・ソンホ） ②九州経済産業局長 廣實 郁郎 2)第20回記念基調講演 「未来志向の韓日協力」 （韓）張 濟國(チャン・ジエグク)東西大学校総長 （日）福田浩一 九経連副会長（山口銀行頭取） 3)セッション1 「再生エネルギー・節電産業協力方案」 （韓）鄭 斗煥（ジョン・ドフアン）韓国エネルギー技術研究院責任研究院 （日）柴田泰平 北九州市スマートコミュニティー担当課長 4)セッション2 「自動車関連産業協力方案」 （韓）金 亨久（キム・ヒョング）釜山経済研究所所長 （日）目代武史 九州大学大学院准教授 5)自由討論 テーマ ①中小企業間経済拡大 ②ビジネス交流促進 ③地域間経済交流の支援 6)両国代表による総括

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） （4）日韓海外・地域間産業連携事業 医療・介護技術連携事業								
事業内容	「九韓医療介護連携フォーラム」を九州と韓国の地域連携の枠組みの中で2012年度より立ち上げた。地域医療のIT化、日本式介護の韓国への紹介を図る。2013年度はソウルの大韓商工会議所に340名を集めて日韓でフォーラムを開催するとともにソウル大学ブンダン病院とソウル市西部老人介護ホームを視察。								
実施状況									
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 537 470 582">期 間</td> <td data-bbox="470 537 1436 582">2013年10月3日（木）～10月4日（金）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 593 470 638">場 所</td> <td data-bbox="470 593 1436 638">大韓商工会議所</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 649 470 694">参加者</td> <td data-bbox="470 649 1436 694">340名の日韓医療介護関係者</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 705 470 750">日 程</td> <td data-bbox="470 705 1436 750">内 容</td> </tr> </table>	期 間	2013年10月3日（木）～10月4日（金）	場 所	大韓商工会議所	参加者	340名の日韓医療介護関係者	日 程	内 容
	期 間	2013年10月3日（木）～10月4日（金）							
	場 所	大韓商工会議所							
	参加者	340名の日韓医療介護関係者							
日 程	内 容								
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 761 470 851">10/3(木)</td> <td data-bbox="470 761 1436 851">日本側訪韓団によりソウル市立西部老人専門療養センター（定員320名、日本の特養に相当）を視察。まだまだ施設数が少ないようであった。</td> </tr> </table>	10/3(木)	日本側訪韓団によりソウル市立西部老人専門療養センター（定員320名、日本の特養に相当）を視察。まだまだ施設数が少ないようであった。							
10/3(木)	日本側訪韓団によりソウル市立西部老人専門療養センター（定員320名、日本の特養に相当）を視察。まだまだ施設数が少ないようであった。								
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="279 873 470 1904">10/4(金)</td> <td data-bbox="470 873 1436 1904"> 1) 午前中は日本側訪韓団によりソウル大学ブンダン病院を見学。IT化状況を視察。アメリカナイズされた韓国の模範となる病院であったが、地域の開業医との連携は進んでいなかった。 2) 日韓医療介護連携フォーラム ①開会挨拶 鮮于 恵 (ソン・ドク) 韓国長期療養学会会長 ②主催者挨拶 (日) 是永和夫 日韓産業技術協力財団専務理事 (韓) 李 鐘允 (イ・ジョンユン) 韓日経済協会副会長 ③ 介護分野講演 「新時代を迎えた日韓福祉療養施設経営と戦略」 (日) 岡部正博 麻生介護サービス取締役 「高齢化社会における介護の経営と戦略」 (韓) 閔 福基 (ミン・ボク) 永楽老人専門療養院院長 「韓国の老人療養施設の経営現況とヨンラク法人の新経営戦略」 ④医療分野講演 「高齢化社会に対応する医療の変革」 (日) 鮎川勝彦 飯塚病院副院長 「超高齢社会における医療の変革」 (韓) 金 哲俊 (キム・チョルジュン) 大田ウェルネス病院院長 「韓国の老人療養病院の現況と新経営戦略」 ⑤地域医療介護分野講演 「地域医療介護IT化の現状と将来」 (日) 岡田真一 日本電気医療ソリューション事業部シニアエキスパート 「日本の地域医療介護IT化の現状と将来」 (韓) 宋 泰玟 (ソン・テミン) 韓国保険社会研究院社会精神健康センター長 「韓国の医療介護IT化の現状と将来」 </td> </tr> </table>	10/4(金)	1) 午前中は日本側訪韓団によりソウル大学ブンダン病院を見学。IT化状況を視察。アメリカナイズされた韓国の模範となる病院であったが、地域の開業医との連携は進んでいなかった。 2) 日韓医療介護連携フォーラム ①開会挨拶 鮮于 恵 (ソン・ドク) 韓国長期療養学会会長 ②主催者挨拶 (日) 是永和夫 日韓産業技術協力財団専務理事 (韓) 李 鐘允 (イ・ジョンユン) 韓日経済協会副会長 ③ 介護分野講演 「新時代を迎えた日韓福祉療養施設経営と戦略」 (日) 岡部正博 麻生介護サービス取締役 「高齢化社会における介護の経営と戦略」 (韓) 閔 福基 (ミン・ボク) 永楽老人専門療養院院長 「韓国の老人療養施設の経営現況とヨンラク法人の新経営戦略」 ④医療分野講演 「高齢化社会に対応する医療の変革」 (日) 鮎川勝彦 飯塚病院副院長 「超高齢社会における医療の変革」 (韓) 金 哲俊 (キム・チョルジュン) 大田ウェルネス病院院長 「韓国の老人療養病院の現況と新経営戦略」 ⑤地域医療介護分野講演 「地域医療介護IT化の現状と将来」 (日) 岡田真一 日本電気医療ソリューション事業部シニアエキスパート 「日本の地域医療介護IT化の現状と将来」 (韓) 宋 泰玟 (ソン・テミン) 韓国保険社会研究院社会精神健康センター長 「韓国の医療介護IT化の現状と将来」							
10/4(金)	1) 午前中は日本側訪韓団によりソウル大学ブンダン病院を見学。IT化状況を視察。アメリカナイズされた韓国の模範となる病院であったが、地域の開業医との連携は進んでいなかった。 2) 日韓医療介護連携フォーラム ①開会挨拶 鮮于 恵 (ソン・ドク) 韓国長期療養学会会長 ②主催者挨拶 (日) 是永和夫 日韓産業技術協力財団専務理事 (韓) 李 鐘允 (イ・ジョンユン) 韓日経済協会副会長 ③ 介護分野講演 「新時代を迎えた日韓福祉療養施設経営と戦略」 (日) 岡部正博 麻生介護サービス取締役 「高齢化社会における介護の経営と戦略」 (韓) 閔 福基 (ミン・ボク) 永楽老人専門療養院院長 「韓国の老人療養施設の経営現況とヨンラク法人の新経営戦略」 ④医療分野講演 「高齢化社会に対応する医療の変革」 (日) 鮎川勝彦 飯塚病院副院長 「超高齢社会における医療の変革」 (韓) 金 哲俊 (キム・チョルジュン) 大田ウェルネス病院院長 「韓国の老人療養病院の現況と新経営戦略」 ⑤地域医療介護分野講演 「地域医療介護IT化の現状と将来」 (日) 岡田真一 日本電気医療ソリューション事業部シニアエキスパート 「日本の地域医療介護IT化の現状と将来」 (韓) 宋 泰玟 (ソン・テミン) 韓国保険社会研究院社会精神健康センター長 「韓国の医療介護IT化の現状と将来」								

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） (5) 日韓海外・地域間産業連携事業 北陸・韓国経済交流会議																			
事業内容	日韓両国の地域間交流を支援することにより、両国間の貿易・投資・産業協力を促進する。 「北陸・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、2000年度より毎年度実施。（隔年で日本・韓国内で年1回開催）																			
実施状況	<p>「第14回北陸・韓国経済交流会議」</p> <p>1) 開催日：平成25年11月20日（水）～21日（木）</p> <p>2) 開催場所：大邱グランドホテル（韓国・大邱市寿城区）</p> <p>3) 参加者数：日本側50名（企業17社） 韓国側70名（企業12社） 計120名</p> <p><主な参加者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側：中部経済産業局、富山県、石川県、福井県、北陸経済連合会、富山県商工会議所連合会、石川県商工会議所連合会、福井県商工会議所連合会、日本貿易振興機構（JETRO）、日韓産業技術協力財団、企業、大学、研究機関など ・韓国側：産業通商資源部、大邱広域市、韓日経済協会、韓日産業技術協力財団、経済団体、企業、大学、研究機関など <p>4) 会議プログラム構成：</p> <table border="1" data-bbox="336 1272 1437 1865"> <tr> <td data-bbox="336 1272 564 1346">11月19日(火)</td> <td data-bbox="564 1272 775 1346">午後</td> <td data-bbox="775 1272 1437 1346">日本側参加者 韓国到着、大邱へ移動</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1346 564 1442" rowspan="2">11月20日(水)</td> <td data-bbox="564 1346 775 1442">8:00～17:00</td> <td data-bbox="775 1346 1437 1442">進出日本企業視察（中村留精密工業、日華コリア） 大邱産業団地、大邱国際機械産業展（EXCO）視察</td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1442 775 1538">17:15～20:30</td> <td data-bbox="775 1442 1437 1538">共同調査調印式、歓迎交流会（韓国側主催）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1538 564 1635" rowspan="3">11月21日(木)</td> <td data-bbox="564 1538 775 1635">9:00～10:50</td> <td data-bbox="775 1538 1437 1635">第14回北陸・韓国経済交流会議 開会、全体会議</td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1635 775 1731">10:50～15:00</td> <td data-bbox="775 1635 1437 1731">専門分科会（①機械ロボット産業、②複合医療）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="564 1731 775 1805">16:00～</td> <td data-bbox="775 1731 1437 1805">日本側ソウルへ移動、ソウル在住北陸出身者懇親会</td> </tr> <tr> <td data-bbox="336 1805 564 1865">11月22日(金)</td> <td data-bbox="564 1805 775 1865"></td> <td data-bbox="775 1805 1437 1865">日本側参加者 帰国</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">* 日本側事務局：北陸環日本海経済交流促進協議会（北陸 AJEC）</p>		11月19日(火)	午後	日本側参加者 韓国到着、大邱へ移動	11月20日(水)	8:00～17:00	進出日本企業視察（中村留精密工業、日華コリア） 大邱産業団地、大邱国際機械産業展（EXCO）視察	17:15～20:30	共同調査調印式、歓迎交流会（韓国側主催）	11月21日(木)	9:00～10:50	第14回北陸・韓国経済交流会議 開会、全体会議	10:50～15:00	専門分科会（①機械ロボット産業、②複合医療）	16:00～	日本側ソウルへ移動、ソウル在住北陸出身者懇親会	11月22日(金)		日本側参加者 帰国
11月19日(火)	午後	日本側参加者 韓国到着、大邱へ移動																		
11月20日(水)	8:00～17:00	進出日本企業視察（中村留精密工業、日華コリア） 大邱産業団地、大邱国際機械産業展（EXCO）視察																		
	17:15～20:30	共同調査調印式、歓迎交流会（韓国側主催）																		
11月21日(木)	9:00～10:50	第14回北陸・韓国経済交流会議 開会、全体会議																		
	10:50～15:00	専門分科会（①機械ロボット産業、②複合医療）																		
	16:00～	日本側ソウルへ移動、ソウル在住北陸出身者懇親会																		
11月22日(金)		日本側参加者 帰国																		

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） （6）日韓経済連携関連事業 新産業貿易会議		
事業内容	日韓経済人会議に先立ち識者により日韓共通の問題を議論し経済人会議に報告上程する場として定着。従来は日韓経済協会と韓日経済協会の共催であったが日韓産業技術財団並びに韓日産業・技術協力財団も共催に加わった。		
実施状況	期 間	2014年3月18日（火）～3月19日（水）	
	場 所	ホテルオークラ東京	
	参加者	両国合わせて84人の経済人が参加	
	日 程	内 容	
	3/18(火)	1) 18:00よりレセプション	
	3/19(水)	1) チェアマン挨拶 (日) 麻生 泰チェアマン (麻生セメント社長) (韓) 安 宗原 (アン・ジョンウ) チェアマン (韓国貿易協会副会長) 2) コーディネーター挨拶 (日) 高田伸朗コーディネーター (野村アグリプランニング & アドバザリコンサルティング 部長 主席コンサルタント) (韓) 李 洙喆 (イ・ス Chol) コーディネーター (Chemcross International 会長) 3) 両代表挨拶 (日) 是永和夫 日韓産業技術協力財団専務理事 (韓) 李 鐘允 (イ・ジョンユン) 韓日経済協会副会長 4) セッション1 「21世紀をアジアの世紀に」 (日) 藤山知彦 三菱商事 常勤顧問 「グローバルリズムとアジア」 (韓) 朴 相鐵 (パク・サン Chol) 韓国産業技術大学校教授 「欧州連合の統合と東アジア経済統合の推進戦略」 5) 講演 (日) 山崎弘 日韓産業技術協力財団 常務理事 「日韓財団20年間の活動と今後」 6) セッション2 「2015年日韓国交正常化50周年、次の50年に向けた未来志向の日韓関係の構築」 (日) 石山博嗣 SJC 理事長 「第三国共同展開の可能性 ミャンマー視察の報告」 (韓) 崔 創喜 (チェ・チャンヒ) 野村総合研究所ソウル韓国代表 「第3国ビジネスにおける日韓協力方案」 (日) 岡部正博 麻生介護サービス取締役 「日韓の医療介護を取り巻く現状と今後の協力」 (韓) 辛 廷植 (シン・ジョンク) 亜州大学校大学院教授 「北東アジアのエネルギー協力」 (韓) 特別講演 禹 宗杭 (ウ・ジョンウ) 埼玉大学教授 「日韓1万人インターンの交流」 7) 質疑応答	

事業名	2. その他事業（日韓未来志向事業） （7）日韓経済連携関連事業 日韓経済人会議								
事業内容	日韓経済人会議は日韓の経済人が両国共通の問題を取り上げ議論し両国政府に対する提言をまとめる場として回数を重ね今回で45回目を迎える日韓有数の会議として定着している。従来日韓経済協会と韓日経済協会の主催により行われていたが日韓産業技術協力財団と韓日産業・技術協力財団も主催に加わった。								
実施状況	<table border="1" data-bbox="271 571 1436 616"> <tr> <td>期 間</td> <td>2013年4月23日（火）～4月25日（木）</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>ロッテホテルソウル</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>両国合わせて311人の経済人が参加</td> </tr> <tr> <td>日 程</td> <td>内 容</td> </tr> </table>	期 間	2013年4月23日（火）～4月25日（木）	場 所	ロッテホテルソウル	参加者	両国合わせて311人の経済人が参加	日 程	内 容
	期 間	2013年4月23日（火）～4月25日（木）							
	場 所	ロッテホテルソウル							
	参加者	両国合わせて311人の経済人が参加							
	日 程	内 容							
<table border="1" data-bbox="271 616 1436 772"> <tr> <td>4/23(火)</td> <td>日本側代表団による表敬訪問 1) 尹 炳世 (ユン・ビョンセ) 外交部長官 2) 玄 旼錫 (ヒョン・ミンソク) 経済副総理兼企画財政部長官 3) 鄭 烘原 (チョン・ヒョンウオン) 国務総理 4) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 (4/24 ロッテホテルにて)</td> </tr> </table>	4/23(火)	日本側代表団による表敬訪問 1) 尹 炳世 (ユン・ビョンセ) 外交部長官 2) 玄 旼錫 (ヒョン・ミンソク) 経済副総理兼企画財政部長官 3) 鄭 烘原 (チョン・ヒョンウオン) 国務総理 4) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 (4/24 ロッテホテルにて)							
4/23(火)	日本側代表団による表敬訪問 1) 尹 炳世 (ユン・ビョンセ) 外交部長官 2) 玄 旼錫 (ヒョン・ミンソク) 経済副総理兼企画財政部長官 3) 鄭 烘原 (チョン・ヒョンウオン) 国務総理 4) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 (4/24 ロッテホテルにて)								
<table border="1" data-bbox="271 772 1436 974"> <tr> <td>4/24(水)</td> <td>1) 団長挨拶 (日) 佐々木幹夫 日韓経済協会会長 (韓) 趙 錫來 韓日経済協会会長 2) 来賓挨拶 (日) 平 将明 経済産業大臣政務官 (韓) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 3) 基調講演 (日) 福田康夫 第91代内閣総理大臣 (韓) 司空 壹 (サゴン・イル) 世界経済研究院院長 4) 特別講演 李 御寧 (イ・オリョン) 中央日報顧問 (元文化部長官) 5) 新産業貿易会議経過報告 (日) 麻生 泰、(韓) 李 洙喆 (イ・スチョル) 6) 協会活動の一般経過報告 李 鐘允 (イ・ジヨンウン) 韓日経済協会副会長 7) レセプション</td> </tr> </table>	4/24(水)	1) 団長挨拶 (日) 佐々木幹夫 日韓経済協会会長 (韓) 趙 錫來 韓日経済協会会長 2) 来賓挨拶 (日) 平 将明 経済産業大臣政務官 (韓) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 3) 基調講演 (日) 福田康夫 第91代内閣総理大臣 (韓) 司空 壹 (サゴン・イル) 世界経済研究院院長 4) 特別講演 李 御寧 (イ・オリョン) 中央日報顧問 (元文化部長官) 5) 新産業貿易会議経過報告 (日) 麻生 泰、(韓) 李 洙喆 (イ・スチョル) 6) 協会活動の一般経過報告 李 鐘允 (イ・ジヨンウン) 韓日経済協会副会長 7) レセプション							
4/24(水)	1) 団長挨拶 (日) 佐々木幹夫 日韓経済協会会長 (韓) 趙 錫來 韓日経済協会会長 2) 来賓挨拶 (日) 平 将明 経済産業大臣政務官 (韓) 尹 相直 (ユン・サンジック) 産業通商資源部長官 3) 基調講演 (日) 福田康夫 第91代内閣総理大臣 (韓) 司空 壹 (サゴン・イル) 世界経済研究院院長 4) 特別講演 李 御寧 (イ・オリョン) 中央日報顧問 (元文化部長官) 5) 新産業貿易会議経過報告 (日) 麻生 泰、(韓) 李 洙喆 (イ・スチョル) 6) 協会活動の一般経過報告 李 鐘允 (イ・ジヨンウン) 韓日経済協会副会長 7) レセプション								
<table border="1" data-bbox="271 974 1436 1176"> <tr> <td>4/25(木)</td> <td>1) 第1セッション 「グローバル経済調整期の余波と日韓両国の対応方策」 (日) 亀崎英敏 ABAC日本委員、(韓) 金宗堦 (キム・ジョンアン) 国会議員 (日) 向山英彦 日本総研上席研究員、(韓) 鄭徳龜 (チョン・ドック) NEAR財団理事長 2) 第2セッション 「‘一つの経済圏’ 拡大・深化のための日韓協力」 (日) 高田伸朗 野村アグリプランニング & アドバイザリー コンサルティング 部長 主席コンサルタント、(韓) 姜棟求 (カン・ビョング) 高麗大学校教授 (日) 中島透 韓国三井物産代表理事社長、(韓) 崔創喜 (チェ・チャンヒ) 野村総合研究所ソウル代表 3) 共同声明採択 潜在成長力を持つ東アジアがアジアひいては世界経済をリードし21世紀をアジアの世紀にして行くことで合意し以下を相互確認した。 ①一つの経済圏形成に向けた具体的施策を行う ②第三国共同進出の拡大 ③未来志向的な日韓関係の構築及び日韓文化交流・青少年交流の拡大</td> </tr> </table>	4/25(木)	1) 第1セッション 「グローバル経済調整期の余波と日韓両国の対応方策」 (日) 亀崎英敏 ABAC日本委員、(韓) 金宗堦 (キム・ジョンアン) 国会議員 (日) 向山英彦 日本総研上席研究員、(韓) 鄭徳龜 (チョン・ドック) NEAR財団理事長 2) 第2セッション 「‘一つの経済圏’ 拡大・深化のための日韓協力」 (日) 高田伸朗 野村アグリプランニング & アドバイザリー コンサルティング 部長 主席コンサルタント、(韓) 姜棟求 (カン・ビョング) 高麗大学校教授 (日) 中島透 韓国三井物産代表理事社長、(韓) 崔創喜 (チェ・チャンヒ) 野村総合研究所ソウル代表 3) 共同声明採択 潜在成長力を持つ東アジアがアジアひいては世界経済をリードし21世紀をアジアの世紀にして行くことで合意し以下を相互確認した。 ①一つの経済圏形成に向けた具体的施策を行う ②第三国共同進出の拡大 ③未来志向的な日韓関係の構築及び日韓文化交流・青少年交流の拡大							
4/25(木)	1) 第1セッション 「グローバル経済調整期の余波と日韓両国の対応方策」 (日) 亀崎英敏 ABAC日本委員、(韓) 金宗堦 (キム・ジョンアン) 国会議員 (日) 向山英彦 日本総研上席研究員、(韓) 鄭徳龜 (チョン・ドック) NEAR財団理事長 2) 第2セッション 「‘一つの経済圏’ 拡大・深化のための日韓協力」 (日) 高田伸朗 野村アグリプランニング & アドバイザリー コンサルティング 部長 主席コンサルタント、(韓) 姜棟求 (カン・ビョング) 高麗大学校教授 (日) 中島透 韓国三井物産代表理事社長、(韓) 崔創喜 (チェ・チャンヒ) 野村総合研究所ソウル代表 3) 共同声明採択 潜在成長力を持つ東アジアがアジアひいては世界経済をリードし21世紀をアジアの世紀にして行くことで合意し以下を相互確認した。 ①一つの経済圏形成に向けた具体的施策を行う ②第三国共同進出の拡大 ③未来志向的な日韓関係の構築及び日韓文化交流・青少年交流の拡大								

V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催

1992年6月に日韓両国政府間で合意された「日韓貿易不均衡是正等のための具体的実践計画」の中で両国の「産業技術協力財団」が協力して業務を実施していくよう連絡協議会を設置することが定められており、その下部機関として幹事会を設け、必要により随時協議することとなっている。

1. 第20回連絡協議会は下記のとおり開催された。

日 時：2013年4月25日（木）

場 所：ロッテホテルソウル

出席者：

（日本側）

委員長	佐々木幹夫	理事長
委 員	上田 勝弘	副理事長
〃	徳植 桂治	副理事長
〃	水野 雄氏	副理事長
〃	麻生 泰	日韓経済協会副会長
〃	吉川 尤雄	日韓経済協会副会長
〃	中島 透	SJC 理事長
〃	是永 和夫	専務理事
事務局	山崎 弘	常務理事
〃	杉山 茂夫	日韓経済協会常務理事
〃	今井 哲郎	理事
〃	木村慎一郎	事業第一部長
〃	奥山 貞三	総務部長

（韓国側）

委員長	趙 錫 來	理事長
委 員	金 熙 勇	理事
〃	金 天 柱	理事
〃	朴 在 弘	理事
〃	孫 鳳 洛	監事
〃	李 潤 雨	韓日経済協会顧問
〃	李 鐘 允	専務理事
事務局	宋 成 基	日本知識情報センター長
〃	張 震 旭	日本ビジネス協力センター長
〃	金 徳 淵	戦略企画室長

朝食・意見交換

（1）両財団の事業実績について

（2）両財団の2013年度事業現状と連携強化について

2. 第21回連絡協議会幹事会は下記の通り開催された。

日 時：2013年7月23日（火）全体会議

24日（水）事業単位分科会

場 所：全体会議 丸の内パークビル

事業単位分科会 三菱商事ビル

出席者：

(日本側)

主査	是永 和夫	日韓産業技術協力財団	専務理事・事務局長
委員	山崎 弘	〃	常務理事・管理部長
〃	杉山 茂夫	〃	常務理事
〃	木村慎一郎	〃	事業第一部長
〃	今井 哲郎	〃	理事・事業第二部長
〃	初瀬川 茂	〃	事業第三部長
〃	奥山 貞三	〃	総務部長
〃	杉原 景	日韓財団 日韓中小企業情報交流センター	課長
Observer	丸山 浩平	外務省 アジア大洋州局	日韓経済室長
〃	伊藤 しの	〃	日韓経済室
〃	中山 正幸	経済産業省 通商政策局	韓国室 課長補佐
〃	木戸 優	〃	韓国室

(韓国側)

代表委員	李 鐘 允	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委員	宋 成 基	韓日財団 日本知識情報センター	センター長
〃	張 震 旭	〃 日本ビジネス協力センター	センター長
〃	金 徳 淵	〃 戦略企画室	室長
〃	金 瑋 瑋	〃 日本ビジネス協力センター	技術支援チーム長
〃	劉 崇 勳	〃 〃	企業支援チーム長
〃	金 度 勳	〃 〃	人材養成チーム長
Observer	李 宙 炯	産業通商資源部 東北亞通商課	事務官
〃	文 準 善	駐日大韓民国大使館 商務官室	書記官
〃	趙 徳 卯	韓日経済協會	事務局長

全体会議 議題

- (1) 2013年度共同事業中間報告
- (2) 2014年度共同事業を含む事業計画方針説明
- (3) ミャンマー報告
- (4) 日韓関係 新たな50年に向けて
- (5) 相互協議

3. 第21回連絡協議会幹事会実務者会議は下記の通り開催された。

日 時：2013年11月5日（火）全体会議・事業単位分科会（1）

6日（水）事業単位分科会（2）・全体会議

場 所：韓日財団会議室

出席者：

（日本側）

委 員	今井 哲郎	日韓産業技術協力財団	理事・事業第二部長
”	初瀬川 茂	”	事業第三部長
”	奥山 貞三	”	総務部長
”	杉原 景	日韓財団 日韓中小企業情報交流センター	課長
Observer	鶴見 大輔	日韓産業技術協力財団	担当

（韓国側）

委 員	宋 成 基	韓日財団	日本知識情報センター	センター長
”	張 震 旭	”	日本ビジネス協力センター	センター長
”	劉 崇 勳	”	”	企業支援チーム長
”	金 度 勳	”	”	基幹産業チーム長
”	李 丞 嫻	”	経営支援室	課長

全体会議 議題

- （1）2013年度共同事業推進状況説明
- （2）2014年度共同事業を含む事業計画方針説明
- （3）上記事業計画及び説明に伴う協議

以 上

VI. 事務局人事

平成25年 4月 1日 杉山茂夫総務部長、今井哲郎事業第二部長が理事に就任

12日 杉山茂夫理事が常務理事に就任

VII. 財 団 主 要 活 動

月 日	事 項
平成25年	
4月 1日(月)	一般財団法人へ移行。
2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・「先進企業技術交流事業」応募技術者面接選考及び審議会実施。(於：韓日財団会議室、今井理事、3日まで) ・是永専務理事、木村部長が第45回日韓経済人会議の打合せのため韓国ソウルに出張、韓日財団他訪問。(3日まで)
4日(木)	是永専務理事、今井理事、木村部長が第45回日韓経済人会議の打合せのため福岡に出張、JR九州、九州経産局、麻生セメント(株)を訪問。(5日まで)
9日(火)	木村部長が10月に開催される韓国中小企業環境経営研修の打合せのため、(公財)北九州国際技術協力協会(KITA)他訪問。(10日まで)
12日(金)	<p>第1回理事会開催。(於：三菱商事会議室)</p> <p style="padding-left: 2em;">議題 第1号議案 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選の件</p> <p style="padding-left: 2em;">第2号議案 主たる事務所移転の件</p> <p style="padding-left: 2em;">第3号議案 基本財産の一部取り崩し及び戦略的活用の件</p> <p style="padding-left: 2em;">第4号議案 第1回評議員会の開催及び付議事項の件</p>
17日(水)	第45回日韓経済人会議結団式開催。(於：三菱商事会議室、是永専務理事、山崎常務理事、杉山常務理事、今井理事、木村部長出席)
19日(金)	<p>決議の省略及び報告の省略により第1回評議員会開催。</p> <p style="padding-left: 2em;">決議事項 第1号議案 基本財産の一部取り崩し及び戦略的活用の件</p> <p style="padding-left: 2em;">報告事項 ① 理事長、副理事長、専務理事及び常務理事互選の件</p> <p style="padding-left: 2em;">② 主たる事務所移転の件</p>
24日(水)	第45回日韓経済人会議開催。(於：ソウルロッテホテル、25日まで)
25日(木)	第20回日韓・韓日両財団連絡協議会開催。(於：ソウルロッテホテル)
5月 3日(金)	千代田区有楽町に事務所移転。
7日(火)	新事務所にて業務開始。
16日(木)	奥山部長が「次世代理工系研究人材交流事業」第6回 Summer Institute 及び第21回 Winter Institute の打合せのため韓国研究財団(NRF)、韓日財団を訪問。
21日(火)	輸出を希望する日本企業の商談支援並びに釜山地区中小企業支援機関訪問のため、JK-BIC 杉原課長が韓国釜山に出張。(24日まで)
27日(月)	是永専務理事、木村部長が第三国視察ミッションの打合せのため韓国ソウルに出張、韓日財団他訪問。
28日(火)	「第20回日韓中小企業商談会」事前説明会開催。(於：東京国際フォーラム会議室、初瀬川所長実施)
29日(水)	・JK-BIC 広報及び相談受付のため「中小企業総合展2013 in Kansai」にて韓日財団とブース共同出展。(於：インテックス大阪、杉原課長実施、31日まで)

月 日	事 項
5月29日(水)	・今井理事が実習生受入依頼のため(株)オーバル(神奈川県横浜市)を訪問。
6月 6日(木)	今井理事、初瀬川部長が打合せのため北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸AJEC)、(財)石川県産業創出支援機構(ISICO)を訪問。
7日(金)	・今井理事、初瀬川部長が打合せのため大垣精工(株)、中部経済産業局を訪問。 ・第6回 Summer Institute 説明会開催。(於:当財団会議室、研究生4名、韓日財団、JISTEC、日韓財団 山崎常務理事、奥山部長、梶山職員出席)
12日(水)	「第20回日韓中小企業商談会」開催。(於:品川プリンスホテル、山崎常務理事、初瀬川部長出席)
14日(金)	第2回理事会開催。(於:三菱商事会議室) 議題 第1号議案 平成24年度事業報告書及び財務諸表の承認 第2号議案 平成25年度収支予算書の一部変更 第3号議案 第2回定時評議員会の招集
17日(月)	韓国釜山市の中小企業支援機関と情報交換会実施。(於:日韓財団会議室、韓国側:釜山情報産業振興院ソテゴン院長他2名、BIBA(釜山国際ビジネス協会・釜山情報技術協会)会員企業4名、日本側:今井理事、杉原課長、計9名出席)
18日(火)	「先進企業技術交流事業」実習生受入企業事前訪問実施。(株)ADEKA(東京都荒川区)、アズビル(株)(神奈川県藤沢市)他5社訪問。(今井理事実施、韓日財団金度勳 Team 長同行、21日まで)
25日(火)	決議の省略及び報告の省略により第2回定時評議員会開催。 決議事項 第1号議案 平成24年度事業報告書及び財務諸表の承認 報告事項 ① 平成25年度収支予算書の一部変更
27日(木)	木村部長が第三国視察ミッションの打合せのため韓国ソウルに出張、韓日財団他訪問。(28日まで)
7月 3日(水)	「先進企業技術交流事業」実習生受入企業事前訪問実施。(株)廣野鐵工所(大阪府泉大津市)他2社訪問。(今井理事実施、4日まで)
13日(土)	是永専務理事、木村部長が第三国視察ミッションの事前準備のためタイ、ミャンマーを訪問。(18日まで)
23日(火)	第21回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会開催。(於:丸の内パークビル、日本側は外務省・経済産業省・日韓財団、韓国側は産業通商資源部・駐日大韓民国大使館・韓日経済協会・韓日財団出席)
24日(水)	連絡協議会幹事会分科会実施。(於:三菱商事会議室、日韓両財団事業関係者出席)
25日(木)	是永専務理事、木村部長が第三国視察ミッションの打合せのため韓国ソウルに出張、韓日財団他訪問。(27日まで)
30日(火)	「先進企業技術交流事業」実習生14名、韓国より来日。 開講式及び歓迎会開催。(於:喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生、外務省、

月 日	事 項
7月31日(水)	<p>経済産業省、駐日大韓民国大使館、日本語学校、韓日財団、山崎常務理事、今井理事、梶山職員出席)</p> <p>翌31日、オリエンテーション等実施。(於：リフレフォーラム(江東区大島))</p> <p>「次世代理工系研究人材交流事業」第6回 Summer Institute 開講式開催。 (於：レキシントンホテル、日本側大学院生4名、山崎常務理事、奥山部長、韓日財団、(公社)科学技術国際交流センター(JISTEC)出席)</p>
8月5日(月)	<p>今井理事が10月に行われる医療・介護フォーラムの打合せ及び下見のため、韓国ソウルに出張。(6日まで)</p>
21日(水)	<p>奥山部長が Summer Institute の研修フォロー実施、研修生の研修先の各大学、研究所を訪問。(23日まで)</p>
22日(木)	<p>(株)矢野経済研究所と情報交換及び業務協力について協議。 (於：同社ソウル支社、同社稲垣佐知也支社長、金龍京研究員、杉原課長)</p>
23日(金)	<p>(社)東北亜産業交流協会と情報交換及び業務協力について協議。(於：同協会ソウルオフィス、李昶世会長、鄭相華事務局長、杉原課長)</p>
29日(木)	<p>「先進企業技術交流事業」日本語教育修了式開催。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、実習生14名、山崎常務理事、今井理事、梶山職員、韓日財団、青山国際教育学院(日本語教育機関)出席)</p> <p>翌30日、企業実習オリエンテーション実施。(於：リフレフォーラム、今井理事、梶山職員、韓日財団実施)</p>
9月1日(日)	<p>「先進企業技術交流事業」実習生14名、受入企業指定の宿泊施設に移動。 翌2日から各受入企業にて企業実習開始。</p>
4日(水)	<p>今井理事が九州・韓国経済交流会議及び九韓医療・介護連携フォーラムの打合せのため、九州経済産業局を訪問。</p>
5日(木)	<p>今井理事が九韓医療・介護連携フォーラムの打合せのため飯塚病院(福岡県飯塚市)を訪問。</p>
9日(月)	<p>金型の製造委託関連ビジネスマッチング実施、商談及び工場見学。(於：大阪所在・有限会社 DAC、韓国企業・HOSEUNG ENGINEERING 来日、杉原課長同行)</p>
13日(金)	<p>・「次世代理工系研究人材交流事業」第6回 Summer Institute 報告会及び修了式開催。(於：レキシントンホテル、日本側大学院生4名、指導教官4名、今井理事、奥山部長、韓日財団、JISTEC 出席)</p> <p>・是永専務理事、木村部長が第三国視察ミッションの打合せのため韓国ソウルに出張。(木村部長は14日から出張、16日まで)</p>
25日(水)	<p>杉原課長が BUSAN IT EXPO 展示会及びセミナー参加。(於：釜山 BEXCO、(財)釜山情報産業振興院・ソテゴン院長、王ソヨン先任、宋ヒョンジュ氏</p>

月 日	事 項
9月27日(金)	<p>同行、26日まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先進企業技術交流事業」中間発表会開催。(於：チサンホテル新大阪、実習生14名、今井理事、韓日財団出席、29日まで) ・杉原課長が冷凍バン調達関連、業務協議のため釜山所在企業訪問。(於：ヨンファテック本社、同社・金ヒョンギョン代表同行)
30日(月)	<p>今井理事が韓国・釜山にて開催された第20回九州・韓国経済交流会議に出席。(10月2日まで)</p>
10月 1日(火)	<p>日韓産業技術フェア2013開催。会期中、第21回日韓中小企業商談会及び第三国ビジネス協力セミナー実施。(於：ロッテホテルソウル、佐々木理事長、是永専務理事、山崎常務理事、初瀬川部長、木村部長、杉原課長出席、2日まで)</p>
4日(金)	<p>第2回九韓医療・介護連携フォーラム開催。(於：大韓商工会議所、是永専務理事、今井理事出席)</p>
5日(土)	<p>是永専務理事、木村部長が第三国視察ミッション下見のためタイ・ミャンマーに出張。(是永専務理事は7日から出張、11日まで)</p>
14日(月)	<p>環境・省エネルギー技術者セミナー実施。(今井理事随行、19日まで)</p> <p>14日開講式及び歓迎会、18日閉講式及び送別会開催。(於：ホテルクラウンパレス小倉、是永専務理事、今井理事、木村部長出席)</p>
22日(火)	<p>杉原課長が第46回 Korea IT Caféに参加。(於：KOTRA IT 支援センター、韓国企業・(株)データストリムズ2名ほか日本企業25名参加)</p>
23日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「先進企業技術交流事業」企業実習終了。 翌24日、実習生集合後、報告会準備。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、今井理事、梶山職員参加) ・奥山部長が「次世代理工系研究人材交流事業」第21回 Winter Institute オリエンテーション出席、及び来年度の第7回 Summer Institute 打合せのため、韓国ソウルに出張。(25日まで)
25日(金)	<p>「先進企業技術交流事業」報告会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生14名、駐日本国大韓民国大使館、実習生受入企業担当者、日本語教育機関、韓日財団、山崎常務理事、今井理事、梶山職員出席)</p> <p>送別会開催。(於：喜山倶楽部、報告会出席者の他、外務省、経産省、宿泊研修施設関係者出席)</p> <p>翌26日、実習生14名、韓国に帰国。</p>
30日(水)	<p>板垣公認会計士による中間監査。(31日まで)</p>
11月 5日(火)	<p>「第21回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会実務者会議」開催。(於：韓日財団会議室、日韓財団4名、韓日財団6名出席、6日まで)</p>

月 日	事 項
1 1月 12日 (火)	杉原課長が「モノづくりフェア2013」で広報及び日韓ビジネス相談受付実施。(於：マリンメッセ福岡、14日まで)
1 19日 (火)	初瀬川部長が韓国大邱で開催された「第14回北陸・韓国経済交流会議」に参加。(22日まで)
2 20日 (水)	杉原課長が「テクニカルショウヨコハマ2014」出展者説明会に出席。(於：横浜市社会福祉センターホール、主催：(公財)神奈川産業振興センター)
1 2月 13日 (金)	今井理事が「先進企業技術交流事業」評価会に出席。(於：ソウルパレスホテル)
1 16日 (月)	是永専務理事、杉山常務理事が「第2回第3国日韓連携進出事例視察ミッション」の打合せのため、韓国三井物産、韓国三菱商事及びNHKソウル支局を訪問。(17日まで)
平成26年	
1 月 6日 (月)	2008年「日韓中小企業情報交流センター(JK-BIC)」開設から運用している日韓ビジネスマッチングサイト(http://jk-bic.jp)を、利用者及び管理者の利便性向上のため第6回目サイト改修実施(第5回目改修は2012年2月実施)。(7日まで)
1 17日 (金)	「次世代理工系研究人材交流事業」第21回 Winter Institute 研究生来日、開講式開催。(於：つくば二の宮ハウス、研究生10名、今井理事、奥山部長、大本課長代理、韓国研究財団、JISTEC 出席)
2 22日 (水)	日本企業の調達(生産委託)相談案件で、韓国企業を訪問し、打ち合わせ及び工場見学実施。(於：(株)DHI(金海市)、ホスン技術(始興市)、Bansuk Technology(安山市)、杉原課長実施、25日まで)
2 23日 (木)	新春賀詞交歓会開催。(於：三菱クラブ、佐々木理事長を始め多数出席)
2 26日 (日)	杉山常務理事、初瀬川部長が「第三国日韓連携事例ミャンマー視察ミッション」の事前準備のためミャンマーを訪問。(30日まで)
2 月 3日 (月)	「第三国日韓連携事例ミャンマー視察ミッション」東京事前説明会実施。(於：三菱商事会議室、是永専務理事、杉山常務理事、今井理事、初瀬川部長、協会伊藤次長、梶山職員出席)
4日 (火)	「第22回日韓中小企業商談会」、「第23回日韓中小企業商談会」の入札に関する第1回事業説明会開催。(於：日韓財団会議室、山崎常務理事、初瀬川部長、奥山部長、梶山職員出席)
5日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ・「第三国日韓連携事例ミャンマー視察ミッション」ソウル事前説明会実施。(於：ロッテホテルソウル、是永専務理事、韓日財団出席) ・「テクニカルショウヨコハマ2014」でJK-BIC 広報及び日韓ビジネス相談受付。(於：パシフィコ横浜、韓日財団劉崇勳チーム長、杉原課長実施、7日まで)

月 日	事 項
2月 6日(木)	「先進企業技術交流事業」平成25年度事業評価懇談会実施。(於：韓日財団会議室、実習生10名、今井理事、韓日財団出席)
8日(土)	Winter Institute 日本文化研修。(都内・日帰り、研究生10名、奥山部長、大本課長代理、JISTEC 同行)
12日(水)	情報収集・情報交換、業務協力要請の目的で、COEX 開催の LED Korea/Semicon Korea 参観、中小企業支援機関訪問。(於：COEX 展示場、ソウルグローバルビジネスサポートセンター(ソウル市)、韓国工作機械産業協会(ソウル市)、杉原課長実施、14日まで)
21日(金)	Winter Institute 報告会及び修了式開催。(於：二の宮ハウス、研究生10名、今井理事、奥山部長、大本課長代理出席) 翌22日、研究生、韓国に帰国。
23日(日)	「第三国日韓連携事例ミャンマー視察ミッション」実施。(日本側参加者29名、韓国側参加者19名、27日まで)
3月12日(水)	2月に終了した「テクニカルショウヨコハマ2014」出展社招待 KIP 会セミナーに参加。(於：神奈川中小企業センタービル、杉原課長他中小企業80名参加)
14日(金)	6月出展予定「機械要素技術展」の出展社のための特別セミナーに参加。(於：東京ビッグサイト・レセプションホール、杉原課長他出展社400名参加)
17日(月)	日本最大級の異業種交流展示会・メッセナゴヤ2014(2014年11月開催予定)の出展募集説明会&展示会活用術セミナーに杉原課長が参加。(於：東京商工会議所、進行：名古屋商工会議所)
18日(火)	第15回日韓新産業貿易会議開催。(於：ホテルオークラ東京、19日まで)
27日(木)	決議の省略により平成25年度第3回理事会開催。 決議事項 第1号議案 平成26年度事業計画(案)承認の件 第2号議案 平成26年度収支予算(案)承認の件
	以 上